

Enjoy Scouting !

定形訓練 野営法講習会 スタッフハンドブック



ボーイスカウト茨城県連盟
トレーニングチーム

Ver.2012.10

野営法講習会について

1. 野営法講習会研修会の目的

野営法講習会は、日本ボーイスカウト茨城県連盟が企画・開設し、初任指導者を対象として、ボーイスカウト運動の基本の一つである「野外活動」について理解を深めると共に、指導者として最低限知っておきたいキャンプの基本的技能について体験することを目的に開催します。また、ウッドバッジ研修所に参加するには、この講習会の修了を参加条件とします。

2. 野営法講習会の開設

野営法講習会は、茨城県連盟の事業計画に従い、県指導者養成委員会が開設します。実際の運営は、計画に従い地区の指導者養成委員会が行います。

3. 野営法講習会の主任講師

主任講師は、県指導者養成委員長・県連盟コミッショナー・県連トレーニングチームディレクターが協議して、県連盟トレーニングチーム員の中から選任します（主任講師は、リーダートレーナー・副リーダートレーナーの中から選任することが望ましい）。

4. スタッフの編成と役割分担

①研修会の運営と主任講師の責務

- ・研修会運営の責任者は主任講師です。主任講師は研修会の目的と責務を理解し、参加者の状況を把握し、十分な成果をあげるよう講師の指導助言を行います。
- ・主任講師は、各講師の担当する各セッションについて責任を持ちます。事前に十分な打合せを行い、セッションの内容、指導方法について指導・助言をします。

②講師と奉仕者の選定

- ・講師はディレクターが、指導者訓練実施年間計画に基づき選任します。また、講師の中から、安全管理担当者を定めます。
- ・県指導者養成委員長は、各地区指導者養成委員長と協議の上、年間計画として、等研修の業務を担当する地区を決め、業務を依頼します。

③セッション担当について

- ・野営法講習会は、「実技」が主体となっています。「講義」は、セッション1と各セッションの導入部分です。
- ・この「講義」は主任講師が担当し、必要最低限の時間および内容で行います。
- 各講師（安全管理担当を除く）はグループを担当し、主に実技の支援（指導）を行うことを基本とします。

5. 野営法講習会にて使用する野営用品

本講習会で使用する野営用品は、参加者が今後参加するであろう「ウッドバッジ研修所」で使用するテント・タープ・炊具・工具を使用することを基本とします。

また、個人で使う野営用具のデモについては、講師もしくは担当地区で用意するものとします。

6. 野営法講習会実施までのスケジュール

4-5ヶ月前	第一回打ち合わせ	指養委・地区コミ・主任講師	概要の確認と共通理解、実施体制とセッション構成確認
	講師スタッフ会議	講師グループ	セッション担当、目的、目標、内容等の確認
	実施内容の確定	主任講師	カリキュラムの決定と必要品の手配依頼
3ヶ月前	開設案内の発送	地区指養委員長	研修案内データを県連事務局に送付
	実施場所の確定	指養担当チーム	会場の確保、打ち合わせ、必要品の調達
	参加者募集開始	地区指養委員長等	定型外訓練は地区で集約、定型は県連事務局
2ヶ月前	講師スタッフ会議	講師グループ	セッション内容等の確認
	業務運営会議	地区指養委員長	必要品の手配進捗状況等の確認等
1ヶ月前	参加者募集締切	地区指養委員長等	定型外訓練は地区で集約、定型は県連事務局
	名簿作成	地区指養委員長	講師と県連事務局等に
	参加案内発送	地区指養委員長	主任講師と連絡の上、スケジュール持ち物等を
1週間前	参加者の把握等	地区指養委員長	キャンセル、変更等への対応、挨拶者の確認
～前日	開設の準備	地区指養委員長	会場確認、準備物確認、最終参加者と班編制等
	セッションの準備	講師グループ	口述資料、プレゼン資料、配付資料、教材の確認

基本事項

- 日 時 平成 24 年 10 月 28 日 (火) 午前 9 時 15 分～午後 4 時 30 分
- 場 所 第 6 地区 守谷市『学びの里』
- 主 催 者 日本ボーイスカウト茨城県連盟
- 開設担当 第6地区指導者養成委員会
- 主任講師 中島清行 (日本連盟副リーダー・トレーナー・阿見第1団)
- 講 師 杉浦一弘 (県連トレーニングチーム員・取手第1団)
大月健人 (県連トレーニングチーム員・笠間第1団)
郡司美津江 (県連トレーニングチーム員・土浦第2団)
- 業務スタッフ 第6地区指導者養成委員会

●日 程

時 間	内 容 (セッション)	担 当
9:15	受付	業務
9:30	開会式、オリエンテーション、写真撮影	業務
9:50	§1. 野営法講習会について	中島
10:10	§2. スカウティングと野外活動・キャンプ	中島
11:00	§3. キャンプに必要な個人用具と選び方	杉浦 + 全講師
12:00	§4. ご飯を鍋で炊いてみよう	郡司
13:30	§5. ロープ結びを覚えよう	大月 + 全講師
14:45	§6. テントやタープを建ててみよう	杉浦 + 全講師
16:00	§7. まとめ	中島
16:20	閉会式、修了証授与	業務、中島
16:30	解散	

●担当グループ

- 第1グループ (大月)
- 第2グループ (郡司)
- 第3グループ (杉浦)

※ § の合間には、適宜トイレ休憩を取ってください。

●準備するもの (詳細は、各セッション展開表を見てください。)

§2	プロジェクター、歌詞カード、講習会ノート
§3	寝袋、マット、ナイフ、雨具、くつ、ザック、ライト、食器、新聞紙、ストーブ、ランタン、マントル、ランタン用ガス、白ガス 等
§4	炊具セット、卓上コンロ、同ガス、風防、皿、昼食用おかず、洗剤、クレンザー、スポンジ、たわし、食器 (ペーパー食器等)、竹箸
§5	麻紐、竹、棒、予備のスカウトロープ、工具 (のこぎり、ナタ、砥石、等)
§6	ドームテント、タープ、予備ロープ、予備ペグ

※用意するものについては、§3 以外は、開設担当業務で用意してください。

●参加者の持参品

- ・指導者手帳 ・マイカップ ・作業手袋 (軍手) ・作業帽 ・雨具 ・箸 ・筆記用具
- ・個人用救急セット ・折りたたみ椅子 ・水筒 ・米 (1合) ・カッターナイフ (もしくはナイフ)
- ・虫除け、虫さされ薬、 ・スカウトロープ ・書籍『指導者のためのスカウトキャンプ』 ・その他

●昼食の扱い

- ・この講習会は、野営法の基本を学ぶものですので、昼食については「自炊」とします。卓上コンロを使用します。
- ・米は参加者が持参しますが、おかずと味噌汁の材料、それにスタッフのお米については、業務側で用意してください。
- ・ご飯は、スタッフの分も参加者に炊いてもらいます。主任講師と業務スタッフは、どのグループに入って食事を摂るかを予め、決めておいてください。講師は担当グループで摂ることになります。
- ・業務スタッフは、それに従って、おかずと味噌汁の具等を各グループに配給してください。
- ・配給については、WB 研修所方式を採用します。
- ・また、食器については、持ち物に含めていません。これは、§3 でどのようなものを買うかを指導するからです。紙の食器 (ご飯用と汁用の 2 つ) を買うか、近くの団からお借りください。
→今後「茶碗とお椀」 (普段使っているもの) を持参させることを検討します。
- ・また、おかず用の皿 (大皿) をグループ分用意してください。

§ 1 野営法講習会について

担当 主任講師 (20 分) 9:50-10:10 場所

●目標

1. 参加者に「野営法講習会」の目的と内容を理解してもらう。
2. 野営法講習会のセッション方法を知る。
3. 今日1日、一緒にセッションを受ける仲間を知る。

●指導上のねらい

1. スカウティングにおけるキャンプ(野営)の位置づけと意義について知らせる。
2. 仲間→班についての意識付けとする。

●留意点

1. 対象は、この運動に入ってきたばかりの「初心者」であることを十分に考える。
すべての参加者がWB研修所に参加するわけではない。
2. この野営法講習会は、すべての野営技能を網羅するものではなく、ごく基本的なものにしか触れられないことを知らせる。

●準備品

なし

●セッションの進め方

1. 導入(座講)

- (1) 楽しく魅力あるスカウティングは、野外での活動によってもたらされるものである。
子どもにとっては「楽しく」「魅力ある」ものであっても、大人の視点から見るとそれは「教育活動」である。知識を伸ばす学校教育とは違い、スカウト教育は、楽しみながら活動することで自ずと社会や人生で役立つ技能や資質が、身につくよう組み立てられている。
- (2) しかしながら、それを指導する指導者が野外活動の基本を知らないとしたら、それでは、スカウトたちに気づいたり、感じたり、意識したりといった自分を成長させる「精神・心」を育むように持つて行くことはできない。
- (3) その第一歩として、これからキャンプの基本をスタッフと一緒に学んで行きましょう。

2. 展開

- (1) 講師の自己紹介
所属団、役務、野営法のここなら任せてくださいのPR。
- (2) グループとグループ担当の自己紹介
今日1日一緒に活動していくグループのメンバーそれぞれ自己紹介。(所属団、役務、氏名) グループリーダーとサブリーダーの選出

3. まとめ

- (1) それでは、これからキャンプの基本をスタッフと一緒に学んで行きましょう。

◆講師の自己紹介(例)

県連トレーニングチームの〇〇〇〇です。
〇〇市の〇〇第〇団で〇〇隊の隊長をしています。
特技は、ロープワークです。任せてください。

§2 スカウティングと野外活動・キャンプについて

担当 主任講師 (50 分) 10:10-11:00 場所

●目標

1. どうして「自然の中での活動」なのか、それが子どもの成長にどうして必要なのかを知る。
2. 「野営法」の知識と技能の修得の必要性について、理解してもらう。
3. スカウティングにおける自然保護への考え方について知る。

●指導上のねらい

1. スカウティングにおけるキャンプ(野営)の位置づけと意義について知らせる。教育的な位置づけだけでなく、自然に対する意識と姿勢についても触れる。
2. この野営技能は、キャンプだけでなく、あらゆる野外活動の基本であることを知らせる。また、各部門における「キャンプ」の位置づけについて知らせる。
3. 野営法は、講習会だけで身につくものではなく、スカウト活動や家庭での活動等で体験的・継続的に養われるものであることを理解させる。

●留意点

1. 一般のキャンプのイメージを引きずっている参加者が多いであろうから、一般のキャンプとスカウトキャンプの違いをかみ砕いて理解させる。
2. スカウティングのすべての活動は「安全」に配慮して行われる。また、指導者として知っておくべき安全(安全教育、安全管理、安全対策)については、別の定形訓練「指導者救急法講習会」「安全・危機管理セミナー」で学習することを知らせるとともに、ここでは、一指導者として、それを実体験として考えるよう、動機づける。

●準備品

教本「指導者のためのスカウトキャンプ」、資料「スカウティングとキャンプ」資料()、

●セッションの進め方

1. 導入(座講)

皆さんはこの歌をご存じでしょうか？

♫ キャンプだホイ キャンプだホイ キャンプだホイホイ ホーイ
キャンプだホイ キャンプだホイ キャンプだホイホイ ホーイ

はじめて見る山 はじめて見る川 はじめて泳ぐ海
今日から友だち 明日も友だち すーっと友だちさ

キャンプだホイ キャンプだホイ キャンプだホイホイ ホーイ
キャンプだホイ キャンプだホイ キャンプだホイホイ ホーイ

はじめて見る鳥 はじめて見る虫 はじめて遊ぶ森
今日から友だち 明日も友だち すーっと友だちさ

そうですね「キャンプだホイ」です。

この歌は、子ども達の自然体験の喜びを、そのまま歌にしたものでしょうか。このように、自然の中に子どもを連れて行くだけで、子ども達は多くの刺激を受けます。それは、『初めて見るもの、触れるもの、体験するもの』が、子ども達の好奇心をかき立てるからです。

例えば、木に登るといふ小さな体験も

「落ちたらどうしよう・・・」

という恐怖心と闘う冒険になります。登り終えたときは

◆セッションの時間

口述が多いので、多少ピッチを上げてください。

◆歌詞について

歌詞カードを作るか、PPTで投影すると良いと思います。

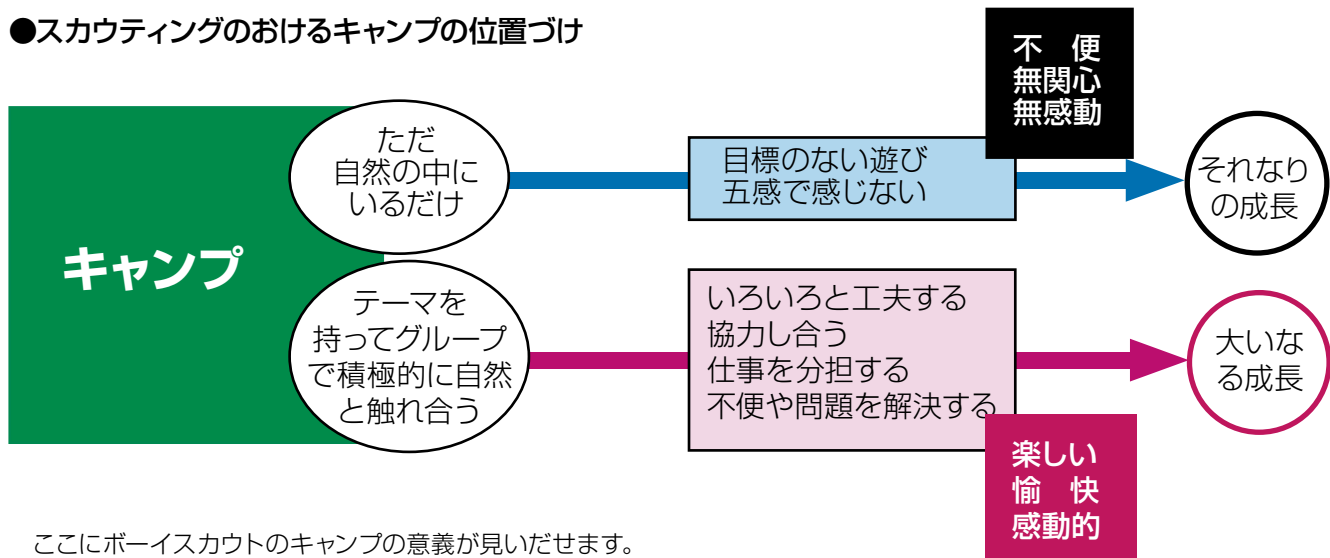
CDやカセットは使わず、主任講師が音頭を取ってみんなで歌いましょう。

「やった～」

という達成感とともに、生きている実感が味わえます。この時代、このような野外活動体験は、子ども達にとって貴重な体験であり、健全な成長に必要な体験なのです。その環境をずっと昔から提供し続けているのが、ボーイスカウト運動です。

2. 展開

●スカウティングにおけるキャンプの位置づけ



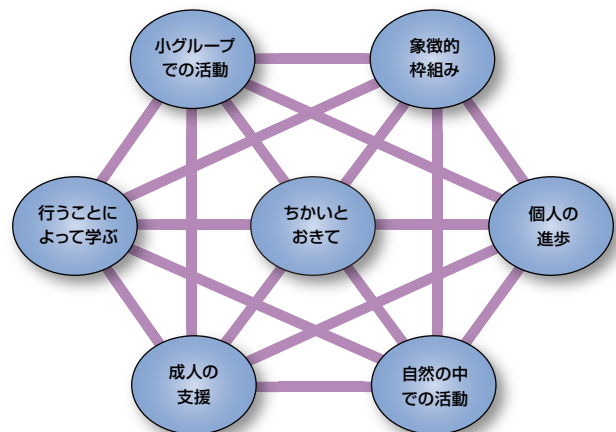
ここにボーイスカウトのキャンプの意義が見いだせます。

●「楽しく愉快的キャンプ」がもたらす4つの成果には

- ①自然そのものがもたらす成果
- ②自然の中での生活がもたらす成果
- ③共同生活がもたらす成果
- ④新しい体験がもたらす成果

・・・がある。

これらは、ボーイスカウトでは右図のスカウト教育法の7つの要素によって達成されます。



(※スカウト教育法についてはボーイスカウト講習会ノートをごらんください。)

●生きていくために必要な5つの力・・・

ボーイスカウトの中の、特にカブスカウトやボーイスカウトの年代は、キャンプを体験すると目に見えて変化（成長）するのが解ります。

いろいろと失敗もありますが、たくさんのことに意欲的に挑戦していくのがこの年代の子どもの特性です。スカウティングの様々な体験を通して、「小さな」やればできるを積み重ねながら、挑戦すること、工夫すること、あきらめないことなどの力を育んで行きます。

その力とは・・・

①創造する力

自分で主体的に取り組む、挑戦する、工夫する、楽しいことを生み出す、とっさに判断する

②探求する力

好奇心が旺盛になる、観察する、知る、聞いたり調べたりする、環境への関心が高まる

③感性

ワクワクドキドキする、美しいと感じる、自然を感じる、危険を察知する

④コミュニケーションする力

知らないことを人に聞く、協力して取り組む、相手の立場になって考える

⑤自己肯定感

達成する、がんばる、あきらめない、やればできるんだ、生きている実感が高まる

◆板書

左表の近郷の次の下線部は、参加者ノートでは（ ）カッコで表記され穴埋めになっています。穴の部分は板書してください。

です。このような能力を開発していくのに、この野外活動は最も適したところなのです。

一昔前なら、外で近所の友達と一緒に遊びながら、生きていくために必要なことを学び、成長していけました。しかし、外遊びの時間が激減している今、親がその環境を作っていくことが必要となってしまいました。

ボーイスカウトの活動は、自然の中での活動を主としています。そこには、子どもの成長を暖かく見つめ、導き、支えていく環境があります。

●「B - Pの最後のメッセージ」には・・・

神様は、一生幸福で楽しく暮らせるよう、私たちをこの世界に送ってくださったのだと私は信じています。幸せというのは、お金持ちになったり、単に仕事上で成功したり、思い通りのわがままができることではありません。幸せになる第一歩は、子どもの間に健康で強い体にしておくことです。そうすれば、あなたがたが大人になった時お役に立つことができ、人生を楽しむことができます。自然研究というものは、この世界が、美しいものや素晴らしいもので満ち満ちていることを教えてくれるでしょう。それは神様が、そういう世界をあなたがたが喜んで受け入れるように贈ってくださったことを示しています。あなたがたの得たもので満足し、それを最もよく生かすようにしなさい。

とあります。

このように「健康」「情緒」「協調」「観察」「推理」「発見」「驚嘆」「感謝」「素直な心」「自発性」「自立心」「自律心」「創意工夫」「信仰心」・・・等を素晴らしい自然から得なさいと言っています。それに気づくこと、感じること、意識すること、そして育むことができるのが自然の中で過ごすスカウトのキャンプです。

●「班」という小グループが持つ意味

また、スカウティングは少人数のグループである「班」によって、活動をしていきますが、ここで、スカウトたちは、**共同生活を通して、本音をぶつけ合ったり、けんかをしたり、一つのことを成し遂げるために工夫したり、我慢したり、認め合ったりなど、濃密なコミュニケーションを体験します。**

班は人を分けるという意味の他に、仕事を分けるという意味があります。スカウトの隊には、基本的に複数の班がありますが、隊の指導の方向は「班のカラーを発揮して、チャンピオンを目指せ」です。

「僕たちの班がイチバン」になるために、班員各自が自分の分担された仕事を責任をもって実行する、または実行するために努力していきます。それによって

班の力が蓄えられていきます、

そして、班のレベルが上がっていくことで、他の班との競争に臨んでいく……。このことは、子ども達の特性を活かした教育方法であり、それによって社会人としての基礎の意識を培っていくことが、このスカウティングの方法なのです。

その効果が顕著に表れるのが班のキャンプです。班長のリーダーシップ、班員の任務に対する意識と責任感、班としてのモチベーションと団結力。そしてライバル班の存在。このような環境をどう整えていくかが隊長&指導者の腕の見せどころです。

また、キャンプでは、実に多種多様な作業があります。居住環境をいかに快適にするか、食事をいかに美味しく作るか、それらをより良いものにするために考え、工夫し、何度も実行して確実なものにしていく。そのプロセスを経験することができるのがキャンプなのです。

しかしながら、「キャンプに行きたい」とスカウト達が思うようなキャンプでなければ、これらの効果を望めません。
これについて創始者B・Pは、

★「隊長の手引き (AIDS TO SCOUT MASTERSHIP)」の中で

- ・キャンプは、スカウティングの中で少年がもっとも喜んでするものである
→まず、魅力があって、やり甲斐があって、楽しいこと。
これがキャンプを行う大前提で、もっとも重要なポイント。この気持ちをスカウトが持たなければ意味がない。

その上で……

★「SCOUTING FOR BOYS」の中で……

- ・スカウトは創意工夫に満ちている。どのような困難なことや不愉快なことがあっても、（創意工夫で）必ず解決することができる。
- ・キャンピングは、スカウティングには大事なもので、少年達には魅力があり、自立心と創意工夫することを教えてくれる機会であり、健康をもたらしてくれる。
- ・求められる精神を備えていれば、キャンプこそ隊長が少年達を夢中にさせることのできるものである。

と言っています。ここに、スカウティングのキャンプの意義が見いだせるのです。繰り返しますが、「求められる精神を備えていれば」とあります。これを知り、実践により自ら体験することで獲得することが指導者が求められています。皆さんは「新任」の指導者ですので、この機会に、是非ともこの精神を身につけていただきたいと思います。

決して難しいことではありません。簡単に言いますと、
それは、次の5つです

- ①指導者自身がスカウティングを楽しもう
- ②指導者が楽しめることに、スカウト達を引きずり込もう
- ③感動した、驚いたなどの感情をスカウトに素直に伝えて、共有しよう
- ④キャンプの作業は、大人が指図したり、やってあげるものではない。スカウト達に役割を与えて、班長のもとで協力してやり遂げさせよう
- ⑤教育的効果を、いろいろと考える必要はない（それは必ずついてくる）

です。

いかがですが、決して難しいことではないと思いますよ。

まず大切な事は、親や保護者の視線ではなく、仲間の視線で、彼らの先輩としてスカウト達を見ることです。

またしても、B・Pの言葉を借りますが、

いい隊長になりたいなら、少年の心を持った大人 (boy-man) になりさえすればよい。

すなわち

- 1) 少年の心を持ち、先ず最初に少年たちと同じ立場に自分を置くことができないといけない。
- 2) 少年期の年齢に応じた欲求、未来を見す力、願望を知っておくこと。
- 3) 集団として少年を扱うのではなく、個人として少年を扱うこと。
- 4) そして、最高の結果を得るために、個人の中に協力の精神を養う必要がある。

新任指導者の皆さんは、保護者という側面、いや、そちらがメインでしょうか。「親」としての地位というか位置づけを大切にしていると思います。

先ほどの言葉は、それらを捨てなさいとは言っているワケではありません。「親の目線」や「親の管理」は大切なことです。ボーイスカウトの指導者になることは、「親子の関係」に加えて、一般の方では味わうことができない「子どもと仲間の関係」になることもできるのです。

これは、大人にとってもたいへん貴重な体験ですよ。

●各部門におけるキャンプ

ボーイスカウト日本連盟では、ビーバー部門の宿泊を伴うプログラム（舎営も野営も）は認めていません。ということは、実際にキャンプを行うことができるのは、カブ部門以上となります。

次の表は、各部門のキャンプについてまとめたものです。

ビーバー部門	キャンプは行わない、見学するだけ。
カブ部門	張ってくれたテントに泊まる。テント張りの手伝い。長くて2泊3日。
ボーイ部門	自分達でテントを張る。固定長期の野営ができる。野営法の基礎技能を身につける。
ベンチャー部門	移動野営、基礎技能の応用
ローバー部門	サバイバル訓練、遠征。

キャンプは、カブのキャンプとボーイ以上のキャンプに大きく分けられます。

それは、ボーイ以上のキャンプが、全てスカウトが行うのに対して、カブ部門では、カブスカウトがテントを張ったり、炊事をするのではなく、指導者が主体となってテントま設営をしたり、炊事場を作ったり、調理するのであって、カブはその手伝いをするということになっています。カブには、サイトを設営したり自然の変化に対する生活を自分でする体力もなく、それに必要な技能の習得もしていません。

つまり、指導者に大きな負担がかかることですから、指導者の経験や技能によっては、常設のキャンプ場に張ってあるテントを利用したり、指導者や支援者がテントを張り、必要な施設を整えてから、カブスカウトを迎えるということも起こります。つまり、カブの指導者と言えども、体力はもちろん、ボーイ隊の指導者同様の野営技能が求められるのです。

※参考として、カブのキャンプの実施条件を見てみましょう

【カブのキャンプの基本条件】

- ①独立したキャンプサイトではなく、1つのサイトに指導者テントもカブのテントも配置する等、カブ隊長の十分な管理下におく。
- ②宿泊用テントの他に、清潔な固定シェルターか防水布のマーキー（大テント）で、荒天時にカブ全員を臨時に収容することのできる施設があること。
- ③雨天及び荒天に全員が避難できる宿泊施設が、少なくとも徒歩で30分以内にあること。
- ④カブスカウトは、それぞれの寝具で寝なければならない。
- ⑤カブスカウトと同じでんとに、原則として最低1名の成人指導者（女子を含む）が宿泊すること。
- ⑥カブ隊24名に隊長、副長2名、カブ1組ごとにデンリーダー1人がつくこと。
- ⑦保護者、団委員、インストラクター、他隊指導者等の支援者5名以上が必要。
- ⑧野営法研究会 Step1 以上を修了したカブ隊長（若しくは副長）および、同じく Step1 以上を修了した経験豊かな支援者1名以上が全期間同行していること。また、事前にこれらの指導者が講師となって、隊や組の指導者に「キャンプ講習会」を実施することが望ましい。
- ⑨一般のキャンパーから独立したサイトであり、ボーイ隊、ベンチャー隊から適切な支援を受けることが望ましい。炊事を専門に担当する保護者（育成会）のチームを編成して支援を受けることも考慮する。
- ⑩長くとも2泊以内にとどめること。
- ⑪刃物（ナイフ、ナタ、斧、のこぎり、鎌等）工具類は、資格を有する（野営法研究会 Step1 修了以上）指導者の適切な指導及び安全管理の下で使用させること。
- ⑫キャンプ地は、居住する市町村から近距離を選定する。
- ⑬予め、団会議で協議し、団委員会承認を受け、⑧の経験豊かな指導者がいること。
- ⑭事前に調整を行い、現地踏査（下見）を実施の3ヶ月以上前と1ヶ月以内の最低2回は実施すること。
- ⑮安全管理責任者を置くこと。

※次は、カブのキャンプとボーイのキャンプの違いについて、表にしてみました。

★カブのキャンプとボーイのキャンプの相違点

	カブスカウト	ボーイスカウト
テント	大きな家型テントかドームテント	班用家型テントかドームテント
日数	デイキャンプ、ウィークエンド1泊キャンプ サマーキャンプ2泊3日以内	デイキャンプ、ウィークエンド1泊キャンプ サマーキャンプ(3～7泊)
雨・風	ひどい雨・風の時は建物の中へ	雨、風は関係なし
指導者	野営法研究会 Step1 修了の隊長1人に副長2人 各組に成人デンリーダー	野営法研究会 Step2 修了の隊長1人、同研究会 Step1 修了の副長1人以上、その他
支援者	保護者、インストラクター、団委員、他隊指導者等 5名以上	奉仕者3～5名
プログラム	基本的にボーイ隊と同じだが、健康を損なわないものであり、心理面でも体力面でも無理がないもの。営火はカブ向きに。	追跡、忍び寄り、ゲーム、スタンプ、ワイドゲーム、自然観察、コレクション、スケッチ、野営料理、班営火、隊営火、歌、ダンス、工作、ハイキング、運動等
場所	近くの屋外で、野外の雰囲気を感じられるところで、近くに避難できるところがあること。	遠隔地。人家の側ではないが、連絡のとれる場所。
設営・撤営	指導者が主体となり、カブスカウトは手伝いをする。	自分達で行う。
炊事	指導者が主体となり、カブスカウトは手伝いをする。	自分達で行う。

§3 キャンプに必要な個人用具と選び方

担当 杉浦講師 (60 分) 11:00-12:00 場所

●目標

1. キャンプに必要な用具の種類を知る。
2. キャンプに必要な用具の性能と選び方を知る。
3. それらを買ったり、スカウトが買う際にアドバイスができるようにする。

●指導上のねらい

1. 実際にモノを見せて、触って、使わせて、使用するシーンと方法を伝える。
2. そして、なぜその性能が必要なのかを理解させる。

●留意点

1. できるだけ実物を見せて、それを触って・使って、実感させる。
2. スカウティングの場面で求める性能と、エクスペディションで求められる性能は違うことを伝える。また、部門によっても求める性能が違うことを伝える。

●準備品

- 寝袋 (レクタングラー型、マミー型「化繊」と「ダウン」)
- マット (エアマット、エンソライト、フォームパッド、サーマレスト)
- ナイフ (シースナイフ、フルディングナイフ、アーミーナイフ)
- ライト (LED、ヘッドランプ、ハンディタイプ)
- 食器 (ポリプロ、アルミ、チタン)
- 雨具 (ポンチョ、PVC コート、レインスーツ)
- くつ (トレッキングシューズ「ハイカット」「ローカット」)
- 手袋 (化繊、木綿、革製)
- * パック (アタックザックタイプ「インナーフレーム」「トップローディング」「サイドローディング」「容量別」)
- * ストープ (白ガス、ガス)
- * ランタン (白ガス、ガス)

●セッションの進め方

1. 導入 (座講)

- (1) スカウトキャンプの装備 (グッズ) を選ぶ上で大切なポイントは、次の 4 つ。それは、
 - ①軽量
 - ②コンパクト
 - ③機能性
 - ④信頼性です。
 - (2) 特に①の軽さは大切。現在、キャンプへのアプローチは車で行くことが多くなっているが、駐車場からキャンプサイトまでは、全ての個人装備を自分自身で背負って行かなければならない。手に持つこともできるが、重いモノを長距離持つことは難しい。背負うのが基本。
 - (3) また、ボーイは「班」というグループでの活動であるが、ベンチャーになれば個人の活動が多くなる。ということは、全ての個人装備を長時間＆長距離自分自身で背負ってある異なる。ということは、(1) で示した「軽量」「コンパクト」「機能性」「信頼性」が求められる。
 - (4) 更に、良いモノは決して安くない。それ相当の値段がする。何度も買い換えられるモノではないわけだから、それぞれのスカウト個人にベストと思われるものをアドバイスできるように、ある程度の知識を身に付けておく必要があります。
- ・・・というポイントを押さえながら、検証していきましょう。

◆用意するグッズ。

無印は、原則全てを用意してください。
「*」印は、できれば用意してください。

◆ベースの時間と組み合わせ。

- 2 ベース・・・20 分毎
 - ①寝袋、マット、雨具、手袋
 - ②ライト、靴、ナイフ、食器
- 3 ベース・・・15 分毎
 - ①寝袋、マット
 - ②ナイフ、食器、ライト
 - ③雨具、靴、手袋
- 4 ベース・・・10 分毎
 - ①寝袋、マット
 - ②ナイフ、食器、ライト
 - ③雨具、靴、手袋
 - ④パック、ストープ

2. 展開

(1) ベース法を用いて、セッションを展開する。

2 班なら 2 つ、3 班なら 3 つ、4 班なら 4 つのベースを作る。

時間と組み合わせは、右記を参照のこと。組み合わせは、担当講師が決めてよい。

ベース担当講師は、そのグッズに求められる性能や実際の使用勝手等を良く理解しておくことが肝要（だから T T は野研 Step3 の修了が必要）。

タイムキーパーは笛で時間の合図を。

(2) 説明をしながら・・・

後述のポイントを説明しながら、実際に触れてもらう。モノによっては、実際に使用してもらう。

・・・・・・・・・・ここから解説・・・・・・・・・・

●野営グッズの選び方 ～解説と選び方のヒント～

キャンプ用品（「野営グッズ」とここでは言います）は、どんなキャンプをするのか（例えば、カブのキャンプ、ボーイの野営、ベンチャーの移動キャンプ等）やどこでするのか（キャンプ場かそれ以外か、山か海か等）、移動方法は何か（車、公共交通機関、徒歩、それらの組み合わせ等）、また、いつの季節に行うか（春夏秋冬）によって、求める機能が異なります。

基本的には、「軽量」「コンパクト」「高機能性」「信頼性」の 4 つを満たしたものを選ぶことが重要となります。

1～2 泊程度のキャンプであれば、ちょっとくらいの不都合は我慢すればすんでしまいます。しかし 3 泊以上、特に長期キャンプ、移動キャンプ、雪山キャンプ等キャンプの難易度が高くなればなるほど、きちんと要求する性能を満たしたものを揃えないと、時には命の危険に遭遇する場合があります。

ここでは、ボーイ隊の低山での夏季キャンプ（2～3 泊程度）を想定した、野営グッズの選び方を解説をします・・・が、あくまでも一般論です。

まず、スカウトキャンプに必要な個人装備を選ぶ上で大切なポイントは、「軽量」「コンパクト」「機能性」「信頼性」の 4 つです。キャンプの楽しさは、この 4 原則に左右されると言っても過言ではありません。

特に軽さは重要です。装備品は軽ければ軽いほどいいのです。野外で生活するための全てを自分で背負わなければならないのだから当然ですね。荷物が軽ければ行動することが楽になります。行動が楽になれば疲労も少ない。そして、疲労が少なければ、水や食料などの量も違ってくる・・・というふうに、重量はアウトドアのあらゆる面でキーポイントとなってきます。

もちろん軽いことだけが購入に当たっての判断基準にはなりません。軽くてもかさばるものは、パッキングする時に困るし、必要な機能が軽量化のために疎かになっていてもいけません。ベンチャーやローバーのソロの移動キャンプや登山では、頼れるのは道具と自分だけなので、信頼性も重視すべきです。つまり「軽量」「コンパクト」「機能性」「信頼性」というチェックポイント全体で装備を選び出すことが大切なのです。

また、誰しもがこう考えます「アウトドアではどんなことが起きるかわからない。だから、もしもの時のためのものを持って行きたい。使うかもしれないものも持って行きたい。それはボーイスカウトのモットーは『そなえよつねに』だもん」と。

確かに予期しないことに備えるのは大切です。しかしながら「もしも」とか「かもしれない」という言葉がつく装備品は、意外と使う機会が無いことが多いのです。こういう装備品は、ただ安心するために持って行くというニュアンスが強いんですね。初心者であるとか、初めての場所に出かける時などに起こる、多分に心理的なことなのです。

身の回りのものを、あれもこれもと欲張って持って行こうとするとときがありません。もし、足りないモノがあれば、いまあるものをうまく使って間に合わせましょう。そして、判断する基準は「使う、使わない」ではなく、そのものが「どれくらい使うのか」という使用頻度で選ぶことが大切なのです。

スカウトであれば、その装備品に求められる「本質」を確実に掴むと同時に、観察と推理と創意工夫、そして知恵と技能で「もしも」の場合に備えるべく「準備」することが大切です。

それぞれの装備に求める細かな性能は、皆さんが今後受講する「野営法研究会」で説明するとして、ここでは、ごく基本的な選ぶポイントをお伝えします。

● BASE 1

★スリーピングバッグ（シュラフ）

寝袋のことです。キャンプで眠ることは、身体の疲労をとり明日の英気を養う上で非常に大切な行為です。きちんと疲労をとることが、安全で楽しい活動に繋がります。ですので、スリーピングバッグは良いモノを揃えたいですね。

最近は安くて良いものが多数出ていますが、スカウトキャンプはオートキャンプではありませんので、自分で持ち運ぶことを考えて、軽量、高性能、コンパクトになるものを用意してください。（→「少量の保温材でも暖かいこと」「軽いこと」「小さくなること」「大きすぎたり、きつくないこと」）

●形はマミー型（人形型・ミイラ型）

ボーイスカウトの活動形態からすすめているのは、マミー型と呼ばれる形のもので、レクタングラー（封筒）型は、寝心地はいいのですが、重くかさばりますので、自分で背負って持ち運ぶことを考えると選択肢から外れます。

●性能としては

「最低温度」が -10℃、「睡眠温度」が 0℃程度です。もし、たびたび冬季のキャンプに出かけたり、寒がりの場合は、それ以上の性能のものを選ぶこととなりますが、通常は前述の「3 シーズン用」がベストチョイスです。夏季のキャンプで、暑いときは、掛け布団の様にしてお使いいただけますから。

●フィル（つめもの、中綿、断熱材）とロフト（つめものの高さ）は

フィルには化繊とダウンがあります。同じロフトであれば、ダウンは驚くほどコンパクトにまとめることができます。ただし濡れたり湿気を多く吸うと高い保温性や断熱性を失ってしまいますし、値段もそれなりに高いです。

化繊はダウンにはかなわないものの、ただし、それはフォロフィルとかエグゼロフトという構造のものは、保温性も断熱性もある程度の高いレベルを持っています。締めつても極端に性能が低下することはなく、すぐに乾燥します。ダウンよりも重量・容積とも 1.5 倍ほど重く・大きくなっています。

●サイズ

ほとんどがレギュラー（身長 180cm 以下）である。それ以上の身長の人のためにロング（ラージ）をラインナップしているメーカーもある。小さい女性や子供用に足下のアジャスターが付いているモノもあるが、ストレッチ性のあるモノだと伸び縮みするのでレギュラーでも大丈夫。

●どこで買うか

ディスカウントショップのものは、やけに薄かったり、厚くても性能が悪かったり、表面がツルツルしていたりと、なかなか良いモノに巡り会えません。ホームセンターは基本的に車で運ぶものが中心の品揃えとなっています。総合スポーツ店（アルペンやゼビオなど）も品揃えが少なく扱うメーカーも偏っています。

やはりアウトドアや登山の専門店、メーカー直営店で買うことを勧めます。

繰り返しますが、快適な睡眠は疲労を回復させ、明日の英気を養うものです。それは、結果として「安全」に繋がります。できるだけ、良いものを選んでください。

●ワンポイント

寒い季節のキャンプでは、寒さ対策としてスリーピングバッグの中にウオー

◆用意する野営グッズ

○寝袋

レクタングラー型

マミー型の「化繊」と「ダウン」

※ここでは、化繊の構造や、スリーピングバッグの製法（箱まち縫い、二重縫い、瓦葺き縫いなど）には触れません。

※マミーとレクタングラーを比較するときには大切なのは4つ。

- ①重量と容量（左記）
- ②デッドエア（内部の空気量。マミーは少なく暖まりやすい。）
- ③内部の広さ（レクタングラーは広く寝返りもうてる。最近マミーでもストレッチシステムという延びて広がるものも出てきました。）
- ④入口・顔がでる部分（レクタングラーは布団と同じで肩が出る→内部の暖まった空気が逃げ出す。マミーはフードがあってそれをかぶってヒモを締めれば、内部の暖まった空気が逃げ出さず、更に保温力がアップする。）

ムシーツを入れて（毛布やフリースのブランケットも可）使用しています。

★マット

快適な睡眠は、スリーピングバッグだけで獲得できるワケではありません。マットがあって初めて快適な睡眠が得られます。マットは、地面からの冷えや湿気を遮断し、地表の凸凹を緩和するなど、快適な睡眠のためには必需品です。

●何を選ぶか・マットの種類

通常のスカウトキャンプだったら、表面がアルミ蒸着のエンソライトマットの60cm幅のものでいいでしょう（ふつうのキャンプだったらこれで十分。@700位と安い）。気泡が独立しているので、断熱効果は高いのですが、コンパクトにはなりません。いくらコンパクトにならないからといって薄いものはダメです。断熱性はありますが、凸凹をやわらげることはできません。厚さ1cm位はほしいところです。

気泡が独立していないフォームパッド（家で使うマットレス）は寝心地がいいのですが、水を吸ってしまうので実用的ではありません。

荷物のかさを減らしたい時は、エアマット（エンソマットよりも重い）になりますが、息を吹き込まなければなりませんし、寒い所ではパンクしやすく、中の空気が対流してなかなか暖まらない・・・と言う欠点があります。リペアキットを常に持ち歩く必要があります。

より快適性を求める場合は、フォームパッドとエアマットを組み合わせたインフレーターブルマットがいいでしょう。これは、空気で膨らますフォームパッドで、コンパクトになります。フォームの弾力を利用して自分で膨らむセルフインフレーターブルマットというものもあります。

●幅や長さは

長さは、原則として身長と同じサイズを用意しますが、夏季の移動キャンプで、少しでも荷物を軽くしたい場合は、1/2 ぐらいのものでも十分です。

幅は1人が横になって収まる幅。各社ごとにまちまちですが、だいたい60cm位となっています。

◆用意する野営グッズ

○マット

エアマット
エンソライト
フォームパッド
セルフインフレーターブルマット

※普通のスカウトキャンプとは

晩春から初秋にかけて、平坦地で行われるキャンプと勝手に定義。

● BASE 2

★食器

●カブでは

食器については、ビーバー隊やカブ隊では、日連で出している「ポリプロ食器」がいいでしょう。収納袋を作ればOKです。丈夫で長持ち、無理な力をかけて変形してもすぐに戻ります。

●ボーイ以上

ボーイ以上になると、クッカー（コッヘル）という直接火にかけられる小型の金属製のものを勧めています。これは、大きさや材質はいろいろですが、サイズの違う鍋を幾重にも重ねられる（スタッキングという）のが特徴で、火にかけても厚くならず、しっかり持てる取っ手のついたものを用意してください。

●材質と構成

材質は、アルミとチタンが主流です。チタンは薄くて軽いのですが、熱伝導率が悪く、焦げ付きやすく、価格が高いという欠点があります。ステンレスは丈夫で重いです。キャンプがメインであれば、アルミ製を勧めます。

構成は、鍋：大小、フライパンと皿が各1つが最小構成でしょう。

●他には

セラカップは、そのままカップとして、また直火OKなので、手軽にお湯を沸かし暖かいコーヒーを飲むのに便利です。

○食器

ポリプロ食器
アルミクッカー
チタンクッカー

★スプーンセット（カトラリー・チャウキット）

我々の間では、俗称これを「武器」と呼んでいます。これもキャンプ等で使いますが、これはビーバースカウトでも使いますので、用意しておきましょう。また、箸が付属していない場合は、別途「箸」を用意してください。

皆が同じモノを使っていますので、必ず油性マジックで名前を書いてくださ

○カトラリー

一般的なスプーンセット
収納式の箸

い。

ただ、正直なところ、このセットのナイフとフォークはほとんど使ったことがありません。…と言うことは、家庭にあるスプーンと箸でも十分って事です。

★ストーブ（クッキングコンロ）

ストーブは、ベンチャー以上の移動キャンプで必要となります。必要に応じてベンチャーになってから揃えましょう。

●どんなタイプがいいか

移動キャンプ用ですから、軽くてコンパクトなものが適しています。燃料がガソリンのものは概して大きく重くなっていますので、選択肢はほぼガスものとなります。ただ、ガスは低温下では気化しにくくなるので、低温用のガスカートリッジがラインナップされているメーカーのものを選んでください。

●ガスボンベの規格

ただし、ガスカートリッジはメーカーによって規格がまちまちです。仲間と共用で使う、ランタンにも使う…となると、仲間と同じ規格（メーカー）のモノを揃えることになります。よく比較検討してください。また、入手のしやすさも考えなければなりません。住居の周辺で調達できるものであることも大切な選択の要素となります。最近は、コンビニでも売っているカセットガスが使えるカセットボンベンチャーガス用のストーブもあります。

●他のポイント

もう一つ重要なポイントがあります。それはバーナー部の大きさと形状です。コンパクトになればなるほど、炎の出方が中央集中型となります。これだと例えばチタンのコッヘルだと中央部分にしか火が回らず、特に炊飯ではコゲやすくなります。火を広げる工夫（もしくは機器）が必要となり、その分重量が増えることになります。

バーナーが大きいと炎が広がりますので、風の影響は受けやすくなりますが、火は回ります。（バーナー形状で横から炎がでるタイプもあります。風に強い五徳の形状のものも出ています。）

また、輻射熱に注意しなくてはなりません。セラミック製品や鉄板、焼き網などは、大量に輻射熱を発生しガスカートリッジを加熱し、内部圧力が急激に上昇し、場合によっては爆発することもあります。カセットボンベ式のものはその構造上特に注意しなくてはなりません。

★ナイフ

ナイフといってもスプーンセットの食事用のナイフではありません。野営でのいろいろな作業に使うナイフのことです。

カブ隊でも、カブブックの課目に「刃物」の課目がありますので、カブのリーダーであっても、どんなナイフをそろえたらいいいかを知っておいてください。

●どんな種類があるか

ナイフの種類は、大きく分けて、折りたたんで柄の中に刃が納められる「フォールディングナイフ」、刃が固定されていて収納できなく「革」のケース（シース）に入れる「シースナフ」があります。

いろいろな機能のブレードがある「アーミーナイフ」もフォールディングナイフのひとつです。

●どれを揃えるか

ナイフは種類によって使用法が異なります。ナイフの取り扱い方を指導すること考えて、勝手に購入せずに団・隊として同じモデルを用意することをすすめます。

お薦めはビクトリノックス社のNLシリーズのラックサックです。これは刃の長さが丁度良く、刃がロックでき、キャンプに必要なブレードが装備されているためです。

●ナイフと法律

ナイフの利用目的は多様であり、特にキャンプ生活上欠くことのできないものですが、全て自由に携帯できることになると、凶器として使用される可能性が大きくなります。凶悪犯罪等の治安上重大な結果を招くことにもなりかねま

◆用意する野営グッズ

○ストーブ

白ガス（ピーク1、スポーツスター等）
灯油（ ）
カートリッジガス（プリムス）
カセットガス（イワタニ）

○ナイフ

シースナイフ+革ケース
フォールディングナイフ
アーミーナイフ
ツールナイフ

※ナイフの使用と管理について

トレーニングチームから出している「ナイフ・オノ・ナタの使い方」に詳しく出ています。ここでは、そこまで触れている時間はありません。

せん。犯罪以外の事故による危害も起こり得ます。このような刃物の携帯に関し、公共の安全を確保するため、次の規制があります。

刃物を所持したり携帯することについては、銃刀法（銃砲刀剣類所持等取締法）と軽犯罪法という2つの法律によって規制がなされています。

★懐中電灯（ライト）

●どれを揃えるか

おすめは、LED ライトです。球切れがなく、電池の持続時間も長いし、高輝度のものも多く種類が出ています。照射角度・光の色等も改善されてきて、実用レベルになっています。ものによっては特殊な電池を使用しているものがありますが、入手のしやすさと経済性から言って、単三か単四電池のものを奨めます。

●どのタイプか

また、手持ちタイプ（ハンディライト）か、頭に取り付けるタイプ（ヘッドライト）かは、意見が分かれるところです。ハンディライトは、テントの中やちょっとした用足しに便利だし、かさばらないので持ち運びに便利。ヘッドライトは、両手が開放されるので、作業や移動の時に便利。どちらか1つ・・・選ぶとしたらヘッドライトにしましょう。

ライトは、日帰りの活動でも、万一の非常時に備え、パックの中に必ず入れておきます。

◆用意する野営グッズ

※これについては、別途ラウンドテーブル棟で説明します。

○ライト

LED ヘッドランプ
ハンディタイプ
バルブ式ハンディタイプ

● BASE 3

★雨具（レインウエア）

雨具に関しては、良いモノを揃えることが大切です。

アウトドアの天候は急変します。特に「山」は。町を出るときに晴れていても、山沿いでは雨になることもめずらしくありません。ということと、野外のどんな活動でも雨具は必ず持って行きます。

レインウエアに防水性があるということは、防風性もあるということです。雨が降っていなくても、風が吹いたり冷え込んできたりしたときは、羽織るだけでアウターウエアとしての効果があります。

●どんな材質・形のものを揃えるか

材質にはいろいろありますが、雨の中の作業を考えるのだったら、防水透湿性素材であるゴアテックスやドライライトテック等のものを選びましょう。

形はレインスーツ型、そう上下セパレートのを揃えてください。靴を履いたままでも脱着ができるように配慮したものもあります。

●ポンチョ

裾が広がっているポンチョは、蒸れにくい上、パックを背負ったまま、パックごと頭からかぶることができるので、ちょっと前まではよくアウトドアで見かけました。難点は、横や下からの風雨に弱いこと、足下が確実に濡れることです。ちょっとしたテント周りの作業にはいいかもしれませんが、勧めません。

●透湿性がないものは・・・

昔からあるゴム引き合羽や PVC コートのものは、汗の逃げ場がない（水蒸気となって外に逃げられない）ので、汗によってかえって服が濡れてしまいます。夏の暑いときは不快そのもので体調がおかしくなりそうです。また、服が濡れたら、着替えなくてはならないので、余分な着替えが必要になる・・・ということは、持ち物が多くなるということに繋がります。

●100 円カップ

コンビニ等で売っている通称 100 円カップは、一時しのぎにはなりますが、透湿性は皆無。しかもフロントはボタンを留めるだけなので密封性もありません。ひとたび強風が吹くと、ひとたまりもなく破けてしまいます。もちろん足下は濡れてしまいます。

●結論

おすめはゴアテックスのレインスーツ。雨具はいい物をそろえてください。

○雨具

ポンチョ
PVC コート
レインスーツ
100 円カップ

場合によっては命に関わってきます。

それと、小型軽量の折りたたみ傘が1つあると便利です。キャンプでのトイレの時とか、ハイキングでの突然の雨の緊急避難用に重宝します。

●ワンポイントアドバイス

いろいろなメーカーから高性能なレインスーツが出ています。つい材質や製法に目がいってしまいがちですが、見落としがちな大切なポイントがあります。それはフードです。フードはふつうスーツの上着に縫い付けられています。ただ、その取り付け方と形状を確認しなくてはなりません。雨の日では特に安全に注意を払う必要がありますが、横を向いたときにフードが連動しないものがあるのです。また、形状が悪い、ヒサシがない、あっても役に立たないものもあります。そんな場合は野球帽（活動帽）をかぶったり、別途レインハットを用意しなくてはなりません。

★防寒着

天候はいつ変わるかわからないし、もしかしたら、スケジュール通りに行動できずにビバークするかもしれません。そんなことも考慮して、夏場でも必ず持参します。

●ハイクで求められる性能

ハイク時に求められる防寒着とは、第一に風を通さないことです。次に保温効果となります。

防風については、レインウェアを利用することもできるので、その場合は保温面を考えて、薄いフリースの上着を持参するようにしましょう。

●キャンプで求められる性能

キャンプの場合は、保温効果を優先して考えましょう。保温のシステムをよく考えて、身体の周りにデッドエア（流れ出さない空気）の層をつくれる、そんな素材のものを選びが大切です。

●材質（素材）

ウールは天然の優れた保温素材で濡れても保温力がありますが、かさばるのが欠点。

フリースは軽くてコンパクトになり、濡れても繊維そのものに浸みこまないのですぐに乾きますが、防風面は弱いのが欠点です（最近防風タイプのもも販売されている）。

ダウンは非常に軽くてコンパクトになるたいへん優れた素材ですが、濡れるとアウトです。フリースに比べて高価です。

●お勧めは

総合的に判断すると、1着ですませるならアウターが防風性のある素材でインナーがフリースになっているものを、重ね着OKなら、アウターにレインスーツの上着、インナーに薄手のフリースを選ぶのがいいと思います。

●発熱性の下着

ここではアウターウェアについて話をしていますが、アウトドアでは、インナーウェア（下着）、ミドルウェア（中間着）の選び方も大切です。

特に、寒い時期のインナーウェアは「綿製」のものはダメです。汗をかいたときに綿は繊維そのものに水分を含んでしまい、それが放出されずに身体を冷やしてしまいます。その点、ポリエステル等の化繊のものは繊維自体には水分を含まないので、それが素早く外に放出されるような素材のミドルウェアとセットにして着用します。

近頃出回ってきた「ヒートテック」等の一般に販売されている発熱素材は町歩きや軽作業に適するように作られています。動いて適度に汗ばんでいれば暖かいですが、汗をかかないと発熱はしませんし、保温性はさほどありません。汗をかきすぎると綿と同じであると思ってください。

また、山用の発熱素材（例えば、モンベルのジオラインなど）は、動いている時に必要以上に汗をかかない、そして動かないときは保温することを第一に考えられています。

これらの違いも知っておくと便利です。

◆用意する野営グッズ

○防寒着

マイクロフリース
発熱性の下着

★作業用手袋（軍手と革手）

●軍手の素材

今、大量に出回っている軍手は「綿 100%」ではなく化学繊維が含まれているため、焚き火や炊事などで熱を加えると溶けてヤケドをしてしまうことがあるので注意してください(真っ白なタイプ:写真下左)。火に対して使うならば「綿 100% (ベージュ色のもの: 写真下右)」か革製の手袋を用意しましょう。

●サイズ

サイズは、手の大きさに合ったものを選んでください。小さいモノは、とっさの時に脱げなくなるので不可。多少大きいモノであればいだろうと使用している者がいますが、使用用途が「作業のため」ですから、手にフィットしたものでなければ危険です。軍手は大人用と子供用の2種類だけの用です。綿製の子供用の軍手はアウトドア専門店でもほとんど見かけません。

●できれば革の手袋を

野営作業のために革製の作業手袋を1つ用意することをすすめます。革製手袋はホームセンターや作業用品店等で 500 円弱で買えます。サイズもいろいろ揃っています。手の甲がベルクロで留められるタイプがいいでしょう。

★トレッキングブーツ

スポーツのシーンでは、それぞれ専用の靴を使います。専用の靴を履くことで、より快適に動き回ることができ、その性能の違いをはっきりと実感できるハズです。

●ハイキングやトレッキングには専用のものを

ボーイ隊以上では、荷物を背負って距離を歩いたり、ハイキング等に使用します。足の保護・安全の確保の意味からしても是非専用のシューズ『トレッキングシューズ（ブーツ）』がほしいですね。足首を覆うハイカットのものを薦めます。ハイカットは、不整地を歩くときに不用意に足をひねらないよう、足首を保護したり、小石や砂利が中に入りにくくするためです。

また、使用目的によってソール（靴底）の堅さや、凸凹の形、溝の深さが違ってきます。堅めの不整地用のブロックパターンのもので選びましょう。

●サイズは

サイズは、自分の足に合っているかどうかポイントとなります（足長、足囲、甲高等）。ぴったりしすぎていてもダメ、つま先部分で足の指を伸ばした状態で自由に動かせる程度（約 1cm 程度）に余裕が必要です。靴を選ぶときは、実際に使用する靴下（厚めのもの）をはいて歩き回ってみよう。アウトドア専門店には、上り下りの状態をみられる台があります。また、足のサイズが計測できる機器がありますので、一度計ってみましょう。

●選ぶときのポイント その1

そのときのポイントは

- ①かかとをきっちり合わせてから、靴紐を締める。そしてしばらく店内を歩き回ってみる。
- ②かかとを上げたときに、シューズが脱げないか。
- ③つま先に 1cm 程度の余裕があって、指が自由に動かせるか。
- ④履き口がフィットしているか、くるぶしやアキレス腱があたらないか。
- ⑤親指、小指などに圧迫感がないか。
- ⑥坂を下ったときに足の指がつま先があたらないか。
- ⑦全体がフィットしているか

です。

また、靴紐を結んでみて、両側のハトメ部分がくっつきすぎたり離れすぎたりするのは避けましょう。人の足の形は千差万別だから、妥協せずにいいものを探したいですね。

●選ぶときのポイント その2

次に、靴の材質です。足は歩いていると相当汗をかきます。この汗が放出されないと、皮膚がやわらかくなり、しわがよって「マメ」ができる原因となります。そのため、防水透湿性のゴアテックスが部分的に使われているモノを勧めます。合成皮革とゴアテックスのものは、皮革のものに比べてメンテナンスがしやす

◆用意する野営グッズ

○手袋

軍手 化繊、木綿
革製手袋

○トレッキングシューズ

ハイカット
ローカット

※革製の登山靴は、一昔前までは憧れでしたが、それをはきこなすのは大変でした。まず、足を靴に合わせるのです。あっていない所は毛糸の厚い靴下で調整します。

いですし、ソフトで安いです。

★雨靴

長靴のことです。キャンプでの作業には必要です。トレッキングシューズのある程度の防水性がありますが、極力濡らしたくないし、汚したくないので、長靴を用意しましょう。新規に購入する場合は、靴底(ソール)がブロック状になっている滑りにくいものを購入してください。持ち運びを考えると、軽くて丸められる農業用のものもいいと思います。

● BASE 4

★バック(ザック、リュックサック)

呼び名は違って同じものです。

ボーイ隊以上は、長期キャンプや移動キャンプをするため、アタックザックタイプを奨めています。トップロードイン(上からしかものに入れない)タイプ使用勝手は今イチです。最近はやや横からも荷物が取り出せるタイプのも出てきました。これだったら勧めます。また、3ウェイバックと呼ばれる「背負う」「持つ」「肩から下げる」ことができ開口部が広いものが多数発売されています。これの方がテントの中では使い易いですね。移動することを考えて身体にフィットした構造のものであれば、こちらがいいです。

最近では、3ウェイバックにローラーが付いているモノも出ています。山登り等縦方向ではなく、横方向に限っての移動であれば、結構便利です。ただ、これを買う場合は、ハードシェルではなくソフトシェル(ペチャンコにつぶれる)もので、キャンターが大きいモノにしましょう。狭いテントでは結構ジャマになります。また、概して重く、背負うための機能は優れていません。

●ポイント

キャンプ用のバックを買うに当たってのポイントは、「体にフィットすること」「軽いこと」「丈夫なこと」「ポケットが適度にあること」「取り出しやすいこと」です。

●容量

容量はBSスカウトで40～50リットル、VSスカウト以上で50～70リットルは必要です。(キャンプの種類によって必要な容量は異なります。ここに上げた数値は、一般的な活動を想定したものです。)

簡単な遠足用バックにハバザック、そして両手に手提げ袋・・・でキャンプに来るスカウトがいますが、モノが揃えられないうちは仕方ないとしても、中学校に入り、本格的に活動に取り組むようになったならば、ちゃんとしたバックを用意するようにしてください。辛いだけの移動はキャンプが嫌いに、つまりボーイスカウトがイヤになる原因にもなります。

●サイズ

バックは、スカウトの身長や体型に合ったものを選ぶことが原則なので、成長途中のスカウトはどうしたらよいのか、という問題があります。多少高くなりますが、10～15cmの身長差がカバーできる調整機能のあるバックも販売されています。スカウトはこれ以上背が縮む事はないので、アジャスターをいちばん縮めたときにフィットするものを選んでください。

今後成長するから・・・ということで単に大きいバックは買ってはいけません。フィットしないバックを背負って歩くことは、中学生年代のスカウトにとっては苦痛でしかありません。その辛さを楽しめるようになるのはもう少し成長してからです。調整機能のあるバックを購入するか、今フィットするものを買って、再度成長が止まったときに新たに買い直すかです。

●担げる重量

担げる重さは、一般的には、ボーイスカウトの年代では多くても体重の1/5までと考えてください。もちろんこれ以上の重量であっても担げるスカウトはいるでしょう。スカウト個々の身体能力で異なります。

しかしながら、短距離では担げても、移動キャンプとなるとベンチャーやローバー、そして屈強な?指導者であっても1/4が限度となろうと思います。

◆用意する野営グッズ

○雨靴

普通の長靴(ブロックパターンソール)
折りたたみできる長靴

○バック

アタックザックタイプ

40リットル、60リットル

インナーフレームタイプ

→トップロードイン

サイドロードイン

ダッフルバッグ

キャスターバッグ

3Wayバック

●カブ・ビーバーは

カブやビーバーの場合、ハバザックがあれば、特に購入する必要はないと思います。ハバザックに手提げバックで2泊3日のキャンプ程度の荷物は収容できます。安全のために両手を空けておけとは言いますが....ほとんどの場合、持って長距離を移動することはないでしょうから。

★水筒

日帰りのハイキングでは、1人1日で約2リットルの水が必要と言われています(食事に含まれている水分も含めて)。近年は、飲料水は入手しやすいので、山奥や僻地、無人島に行かない限り、全行程必要量を持ち歩くことは必要ありません。

●容器はペットボトルでOK

一般的なスカウトのキャンプやハイキングでは、大きなステンレスの魔法瓶タイプのものは重くてかさばるので不可(小型のものはOKだけど容量が足りない)です。

近隣のハイキングや低地でのキャンプ等であればペットボトルで充分です。クラッシュプル容器の500ccのペットボトルを数本持つか、その都度補給することでOKです。

ただし、季節・標高・場所等TPOを考えてください。冬山でペットボトルはだめでしょう。

●中身は「水」が大原則

魔法瓶タイプの水筒にお茶やコーヒーを入れている方がいますが、怪我の傷の中の異物を取り除いたり、洗ったりすることに使うことを考えて、水か白湯にするか、そうでなれば、別途「水」を持って行くようにしてください。

これは「そなえよつねに」を最も具現化したものです。

●ワンポイント

冬季のキャンプでは、お湯を入れて「湯たんぽ」として使うこともあるので、アルミ製の(例えばシグボトル)ものや、ホット用のペットボトルもいいかも。魔法瓶タイプじゃ「湯たんぽ」にならないよ。

★プロトラクターコンパス(プレートコンパス)

ボーイ隊以上のハイキングでは必需品です。代表的なもの「シルバコンパス」がありますが、「シルバー」コンパスでなく、シルバ社製のコンパスという意味です。他にも雄目WB実修所名メーカーに「スント」があります。

スカウトの読図プログラムでは、2度単位での精度が必要になりますので、リングの目盛りが2度単位で打ってある「シルバ・タイプ3」か、それより高性能のものを用意してください。

丸い針がぐらぐらしている、いわゆる「方位磁石」はダメです。

◆用意する野営グッズ

○水筒

マルキル
ナルゲン
シグ
ペットボトル(エビアン)
魔法瓶タイプ

※ TPO

時(time)、所(place)、場合(occasion)

○コンパス

シルバ社 タイプ3
普通の方位磁石

※プロトラクターは分度器のこと。機能面からいうと「プロトラクターコンパス」

プレートコンパスはその形状から称するもの。

(3) 時間になったら

時間になったら、講義テーブルにもどってもらう。

3. まとめ

さて、これらのグッズですが、制服以外は、ボーイスカウトのスカウト用品部（エンタープライズ）の商品である必要はありません。ただし、カタログに掲載されているものは、それなりの根拠があって選ばれているモノでもあります。

正直なところ、世の中には安価でいい物がたくさんあります。ただし、ディスカウント店の安物には飛びつかないでください。まだまだ、安かろう悪かろうの粗悪商品がたくさんありますし、ボーイスカウトの使用目的・方法にそぐわないモノもたくさん出回っています。これらのグッズは決して安いモノではありませんが、いざというときに自分の命を守ってくれるモノであるということも理解してください。

ですから、我々指導者がキャンプ用品を選んで、それを指示するということは、「安全」を確保するという大切な行為でもあるのです。

また、選ぶ際のポイントは、「軽量」「コンパクト」「機能性」「信頼性」の4つであることは、前に言った通りです。

ホームセンター等には、多くのアウトドア商品がおいてあります。コールマンやロゴス等の有名ブランド品もあり、つい「これでいいか」となってしまいがちです。しかしながら、それらは基本的にファミリーキャンプ用であることを知っておいてください。それらは「車」で運搬することを前提に作られていることを。

スカウト活動も、実際は「車」で荷物を搬送することが多くなってきてはいますが、ジャンボリー等では炎天下の中、延々と歩いてサイトまで行かなくてはなりません。ベンチャーやローバーになったら、すべての装備を背負って、徒歩で目的地を目指すこともあります。

良い野営グッズは高価です。高価ですが、それなりの価値がありますし、長期間の使用に耐え得るものでもあります。震災などいざというときにも安心して使えます。この信頼性は何ものにも換えられません。それは素晴らしい野営生活を送れることでもあるのです。

さて、集会等にとっていく前に必ずやっておくべきことは、「名前を書く」ことです。隊ではみんなが同じ様なものを使っています。失くしたり一緒にまとめた場合に所有者を特定できません（失くした本人も自分のものかどうかわからないのです!!）。キャンプに持って行くものは、リュックから靴下パンツに至るまで、すべてのものに名前を書いておくよう、ご指導ください。

もし、購入する際に、どれを選んでいいのかに迷ったら、茨城県連のホームページをご覧ください。

リーダースクラブ → 指導者支援 → 野営グッズの選び方

<http://www.scout-ib.net/03HOWS/0302/HPIB03-02-01.html>

※結局のところ、どのメーカーのグッズを選ぶか・・・は、個人の好みとなってしまいます。基本的な求める性能が確保できていれば、その先（デザイン、色づかい、付加機能、ブランド等）は各自の好みであってかまいません。

ここでは、その基本性能を述べていますので、それだけは押さえてください。

§4 ごはんを「鍋」で炊いてみよう

担当 郡司講師 (90 分) 12:00-13:30 場所

●目標

1. 野営の生活の基本は「食う」「寝る」「排す」「遊ぶ」ということを知る。
2. 一番大切な「食事」、その中でも「ご飯」をきちんと炊くことができるように。
3. 仲間と一緒にの食事は楽しいことを体験する。

●指導上のねらい

1. 実際にご飯を「鍋（コッヘル）」を使って炊いてみる。そのコツを掴む。
2. 班員の役割分担と仲間意識の向上を感じてもらう。

●留意点

1. 炊飯セットを使って、ご飯と味噌汁をつくる。
2. 熱源は「卓上コンロ」。
3. 各グループで、役割を分担して作業を行う。

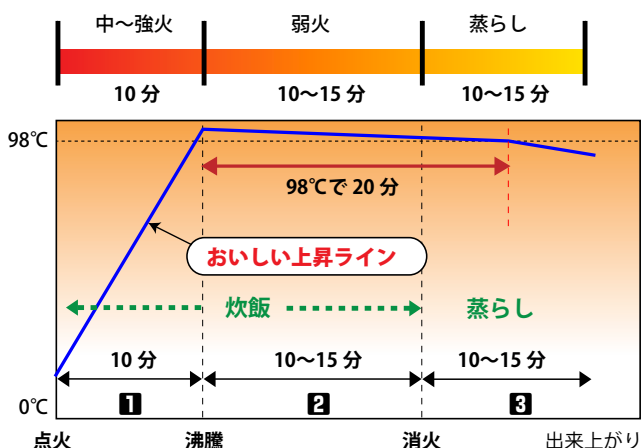
●準備品

- 【各班】炊具セット (1)、カセットコンロ (2)、食器 (人数× 2)、
【個人】米 (1 合)、箸、軍手、

●セッションの進め方

1. 導入 (座講)

- (1) 野営の生活の基本は「食う」「寝る」「排す」「遊ぶ」です。
このうち、最も大切なのが「食う」、そう「食事」です。
これは、ヒトとして基本的な欲求で、動物的な本能と言えます。ヒトは物を食べることで肉体を維持し、考え、そして行動します。
- (2) もちろん、追いついて物を食べることは重要なことです。美味しい食事は疲れをいやしてくれるし、張りつめた心を和ませてくれます。
- (3) キャンプだからと言って、特に変わった物を食べる必要はありません。普段の食事と同じようなものでかまいません。
- (4) これから、各グループごとに、基本中の基本である「ご飯」を炊いてもらいます。最近は「土鍋」でご飯を炊く方もいますが、炊飯器で炊いたことしかない方は、是非とも率先してチャレンジしてください。
- (5) これから、アンチョコを差し上げます。この通りにやれば、取りあえず美味しいご飯を炊くことができますが、そこには書くことができない「ノウハウ」が実はあるのです。それを見つけていきましょう。
→「始めチョロチョロ、中パツパ、赤子泣いても蓋とるな」は皆さん聞いたことがあると思います。それを目に形に表したのが、この図です。
- (6) 作る量は、各班+2名 (講師 + 業務) 分です。(2.(2) ③参照)



◆装備の準備 (業務)

炊具セット
カセットコンロ+ガス
食器 (紙食器) 器 2、皿 1 / 人
(食器が用意できれば食器を)
出来合いの食材
これらをグループ単位で用意しておいてください。

◆実習の場所 (業務)

火を使っていい所を確認しておいてください。特に雨天で、施設を使用する場合は、確実にお願いします。

◆水とシンク (業務)

米を研いだり、食器を洗ったりします。それができる場所と、ご飯粒の処理、残飯の処理等も押さえておいてください。

※左記の準備品以外に

- ・水切り袋 (流しに 1 つ)
- ・ゴミ袋 (各班 1 つ)
- ・洗剤 (流しに 1 つ)
- ・食器洗いスポンジ (各班 1 つ)
- ・たわし 等が必要か。

1 始めチョロチョロ

→弱火ではない。中火から強火

2 中パツパ

→強火ではない。中を沸騰状態に保てる火力

3 赤子泣いても蓋とるな

→火を消してから最低 10 分間。

2. 展開

(1) 各グループに装備と食材を渡す

- ① 予め、配付物はグループごとに分けておいておく。
- ② 各グループの代表 2 名に、それらを取りにきてもらう。戻ったら、炊具の員数チェックをさせる。この必要性を伝える。
- ③ 確認が終わって、席についた所で、資料を各グループ（全員）に配る。

(2) 資料「美味しいご飯を炊こう」を読みながら、ポイントを伝える

- ① 担当講師より行う。
- ② 次に、実習の場所、安全の確認（火気の取り扱い、機器の取り扱いだけでなく、作業時の事故防止について説明する。）を行う。
→ルールとして作業している人をそばを通るときは、必ず「後ろ通ります」等の声かけをすることを伝え、実行させる。
- ③ 作る分量は、班員＋講師＋業務（※）

※作る分量は班員の数だけにして、
講師＋業務は弁当でも可

(3) 調理実習

- ① グループ担当の支援により、炊飯と味噌汁作りを行う。
- ② おかずは、予め、別途用意（できあがった物）して提供する。
- ③ 食器を使う場合は、最後に、お茶を沸かして飲めるように。（兼、食器洗い）

(4) 後片付け

- ① 火の始末、器具の点検と員数チェック、そして収納。
- ② 環境保護、特にキャンプでは水は貴重、できるだけ環境に配慮した方法で食器を洗う。（お茶で茶碗を洗う・・・先人の知恵）
- ③ 最後に、ロールペーパーを使って、食器をの隅々まできれいにする。
ロールペーパーの利用により、洗剤と水を最小限に抑える。
*木材資源の保護・・・という観点からは、ペーパー使用の是非が問われるが、現時点では、イチバン実態に合った方法。

3. まとめ

(1) みなさん、お昼ご飯は美味しく食べられたでしょうか？

自然の中での食事、そして仲間と一緒に楽しい食事は、食べ物により一層美味しくするだけでなく、仲間意識をより高め、疲れを癒してくれ、また、張りつめた心を和ませてくれます。

- ① キャンプで最大の喜びは何かを伝える。
- ② 安全を確保することは、楽しいキャンプの基本となる。それには細心の注意をすることが必要。
- ③ 備品管理、食品管理の重要性を知らせる。
- ④ 環境に配慮することを考えさせる。
- ⑤ スカウト精神についても触れる。

美味しいごはんを炊こう

「飯盒やコッヘルでの炊飯は難しい」と思っている方がいますが、次のポイントを押さえれば、意外と簡単です。コッヘルは家庭の炊飯器で炊くのとあまり変わりませんよ。

1. 計量 お米の分量は正しく計る

- ①飯盒の内蓋（180ml）にお米を山盛りに入れます。
- ②余分に盛り上がっているお米を箸などで「すり切り」します。これで2合です。

2. 洗米 軽くゴミを落とす程度にすばやくすすぎ洗い

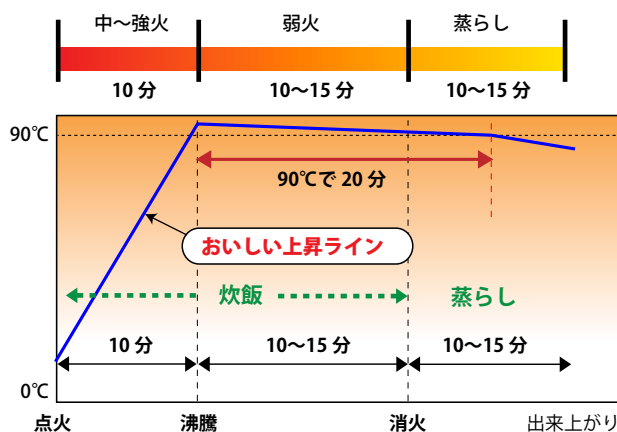
- ①最初は、米の入った飯盒に（良い）水を一気に注ぎ、軽くまぜて、すばやく水を捨てます。
 - ②次に、お米がかぶるくらいの水を入れ、指先でシャッシャッと10回ほどかき回して水を捨てます。
 - ③②を3～4回繰り返します。とぎ汁が濁っていてもかまいません。
- ※あらかじめボウルに水をためておくと、水道の蛇口から直接水を注ぐよりスピーディーに作業ができるので、お米にヌカの臭いがつきにくくなります。また蛇口からの水より水流がやわらかく、お米の表面を痛めません。

3. 吸水 冬は1時間、夏は30分の吸水を

- ①お米はさっと洗った後、ザルにあげて水気を切り、すぐに飯盒に入れます。
 - ②洗ったお米と同容量の水を入れて吸水させます。
（夏：15～30分、冬：30分～1時間）
- お米を炊くとき、水はお米の容量の1.2倍が原則ですが、洗米のとき、すでにお米は水を吸っているのので、同量の水を入れたら、合わせてちょうど1.2倍になります。（4合→4.8合）

4. 点火 飯盒を予め火をつけたカマドにかけます

- ①「沸騰まで10分」がおいしさのコツ
飯盒でおいしいごはんを炊くキーポイントは「炊きはじめてから沸騰するまで10分」という時間。お米の甘味がしっかり引き出せ、ふっくらとしたごはんが炊けます。沸騰までの時間が10分より短いと甘みがなく硬いごはんになり、沸騰まで時間がかかりすぎると甘味は強いけれどベトベトのごはんになります。
- ②許容範囲は9～12分。この範囲で沸騰させます。



5. 沸騰したら弱火 そのまま15分炊きます

- ①沸騰して中からネバネバがあふれてきたら、弱火にします（鍋に対してゴハンが少ないとネバネバは溢れてきません）。そして、10～15分炊いて、蒸らしの時間も含めて90℃以上を20分キープすれば、粘りがあるふっくらしたごはんに仕上がります。
- ②グツグツと米が対流している音がしなくなり、チリチリという音に変わったら火からおろします。その直前に一時的に強火にすると、うっすらとおいしい「おこげ」ができます。

6. 蒸らし 火を消して10～15分蒸らします

- ①火からおろして、カマドのそばで飯盒を逆さにひっくり返して10～15分蒸らします。軽く飯盒の底をポンポンと軽く叩くといいでしょう。コッヘルの場合はそのままかまいません。
- ②これは、ご飯の上層と下層の炊き加減の差を少なくするためです。

●お米の甘みを増すには

お米自体の甘みが薄くて炊きあがりの味が物足りないときには、沸騰までの時間を「おいしい上昇ライン」のめやすの10分より少し長めにしてみましょう。沸騰までの時間が長いとごはんの甘み（糖量）が増すためです。ただし沸騰まであまり長い時間をかけすぎると、お米が水分を含みすぎて、べちゃべちゃした食感になるので気をつけて。

●古米も飯盒ならおいしく炊ける

古米は、ふだんより火力を弱くして「沸騰まで15分、とろ火にして15分、蒸らし15分」で炊くとおいしく炊けます。沸騰までにかかる時間を延ばすことで・・・

- (1) お米が十分水を吸う
- (2) デンプン質の糊化（アルファ化：やわらかく、おいしく食べられる状態になること）が促進される
- (3) 酵素が活発に働く時間が長くなって甘みが増すからです。炊飯器では火力の調節ができませんが、飯盒なら火力の調節は自由自在、古米もおいしく炊けます。

●飯盒の水加減

飯盒の内側には、2つの目盛りがあります。下の目盛りは2合の米を炊くときの入れる水の線です。上の線は4合のときの水の線です。

コッヘルの場合は、左記の3.の水加減で。よく指を入れて第一関節までとか、掌を入れて掌がつかない位とか言われていますが、個人差がありますので、最初のうちはできるだけ正確に計ってください。

●ちょっとした工夫

飯盒の底にアルミ фольを敷いてから米を炊くと、コゲが付かず洗うときに楽・・・と言われています（勧めませんが）。また、鍋にアルミ фольをかぶせてから上蓋をすると内圧が上がり、ふっくらしたごはんが炊けます。コッヘルの場合は、フタに缶詰などを載せて重しをすることもあります。

§5 ロープ結びを覚えよう

担当 大月講師 (75 分) 13:30-14:45 場所

●目標

1. キャンプで使う、基本的なロープ結びができる。
2. 野営工作にはどんな結びが使われているかを知る。
3. 安全に配慮した、作業について知る。

●指導上のねらい

1. 基本のロープ結び、次の 9 種類を知ってもらう。
 - ・本結び ・ひとえつぎ ・8の字結び
 - ・もやい結び ・巻結び ・張り綱結び
 - ・角縛り ・ねじ結び ・ふた結び
2. 立ち木にロープを巻くときの保護について知らせる。
3. ロープワーク時に予想される危険について知らせる。
4. ボーイ隊のキャンプで使う、野営工作では、どこにどんな結びが使われているかを知る。

●留意点

1. グループ担当者の指導のもとで、全員が体験する。
結びができる者は、教える立場にまわってもらう。
2. グループごとに、担当者が結びの説明(用途やシーン)をしながら実習を行う。
3. 予想される危険への指導
ロープ扱い時の摺り・やけど。ロープの不備(断裂やキンク等)の点検も。
4. キャンプで使う野営工作について知るために、縮小模型を使って説明する。

●準備品

冊子「ロープ結び」及び参考図書、デモ用ロープ、竹または丸棒(参加者数) 麻紐(中太、大巻のもの)、練習ロープ、その他

●セッションの進め方

1. 導入(座講)

- (1) キャンプの生活は、不便なことばかりです。それが快適な生活に変わってしまう魔法があります。それはロープ結びという魔法です。
- (2) ロープはキャンプで必ず言っているほど使うものです。キャンプサイトでも、荷物のパッキング(荷造り)でもロープが必要となります。靴の紐もロープの一つです。
- (3) ナイフが1本あれば、さまざまなところで役立つように、ロープがあれば非常に幅の広い使い方ができるのです。
- (4) ロープ結びのことをロープワークと言いますが、これをマスターすれば、キャンプサイトの様々なシチュエーションで応用することができます。最近の用具では、金具やプラスチックのバックルなどを採用しているので、ロープワークを知らなくても設営できる用になっています。しかし、それは、あくまで便利な機能がついているだけと考えてください。それが壊れたり、はじめからなければ・・・ロープワークを知っていれば困ることはありません。
- (5) キャンプサイトでのロープワークは・・・
 - ・タープやテントとペグを結びテンションを与える
 - ・立ち木などの間にロープを張る
 - ・丸太と丸太を組むです。こうした基本形に対応できる結び方を、これから覚えましょう。

◆装備の準備(業務)

竹または棒(班員数+担当スタッフ)
これらをグループ単位にしておいてください。

屋外で、立ち木の間にロープを張る等のデモンストレーションをする場合は、ロープやウエスの用意します。

ロープワークの一覧ボードがあれば、それも用意してください。

●スキルトレーニングへの対応

- ・本結び
- ・ひとえつぎ
- ・8の字結び
- ・もやい結び
- ・巻き結び
- ・張り綱結び(トートラインヒッチ)
- ・角しばり
- ・ねじ結び
- ・ふた結び

の全てはスキルトレーニングの課目となっています。これができるればLT,ALTにより認定が受けられます。主任講師が、LT,ALTでない場合は、認定資格を持ったLT,ALTを招請しましょう。

2. 展開

(1) 各グループに装備を渡す

- ① 予め、グループごとに竹材を分けておいておく。角しぼり用の麻紐は、少人数の場合は、巻のままで、グループの分けずにそれぞれが必要な長さを切って持って行く。
(大人数の場合は竹の太さにもよるが、だいたい1ヒ口相当に人数分切って、分けておく)
- ② 各グループに、それらを取りにきてもらう。
- ③ 資料を各グループ(全員)に配る。

(2) 資料を読みながら、ポイントを伝える

- ① 担当講師により行う。
ロープワークは、大きく3つのタイプに分けることができる。
 - ・ロープとロープをつなぐ結び方
 - ・ロープで物を縛る(くくりつける)結び方
 - ・ロープそのものを何かに留める結び方
- ② ここでは、
 - ・結ぶ : 本結び、一重つぎ、8の字結び
 - ・縛る : 巻結び、角縛り
 - ・留める : ねじ結び、ふた結び、もやい結び、張り綱結びの9種類を実際にやっていきます。
- ③ 正しい「結び」は、
 - ・簡単に結べて、確実に結べて、簡単にほどくことができる
- ④ マメ知識
 - ・スカウトロープは、結びの練習のために使うもの。
静切断過重・・・70kg しかないのもそれ以外には使わない。

(3) 実習

- ① グループ担当の指示で、グループごとにロープ結びを始める
実習の順序は
 - ・本結び ・一重つぎ ・8の字結び
 - ・もやい結び ・巻結び ・張り綱結び
 - ・角縛り ・ねじ結び ・ふた結び
 - ・立ち木にロープを巻く場合は、ウエスや段ボール・新聞紙などで、立ち木の樹皮の保護をする。(※実は、これは立ち木の保護ではなく、ロープの繊維の中に樹皮や樹脂が入り込まないようにするもの。←これは参加者には言わなくていいです。)
 - ・張り綱結びともやい結びは、次の §6 でも体験する。
- ② キャンプサイトのジオラマを見せることで、ボーイスカウトのキャンプで使う「野営工作」とそれに使用する「結び」を知ってもらう、と同時に、今、覚えた結びを使えば、これらがほとんどできてしまうこと、これができるとうれいでしょう・・・と伝える。
- ③ 安全について、機会を捉えて説明する。

※誰か作って!!

3. まとめ

- (1) ロープワークは慣れないと、なかなかたいへんですね？
でも、キャンプのシーンで、実際に使いながら覚えると、意外と忘れないものです。
繰り返し使うことで、しっかりと身につきますよ。そして、結びを覚えるとキャンプがますます楽しくなりますし、キャンプだけでなく家庭のいろいろな場面でもとても役に立ち、一時だけ株が上がります。
 - ① 結びは理論ではなく実践である。日頃の反復練習が大切。
 - ② 安全な作業には、細心の注意が必要。
 - ③ 環境についても配慮することが必要。

§6 テントとタープを建ててみよう

担当 杉浦講師 (75 分) 14:45--16:00 場所

●目標

1. ドームテントを正しく建て、また、きちんと収納ができる。
2. タープを正しく建て、また、きちんと収納ができる。
3. 安全に配慮した、作業について知る。

●指導上のねらい

1. ドームテントやタープの構造、張り方、取り扱い上の留意点を知らせる。
2. 建て方、しまい方について、正しい方法を知らせる。
3. 設営時、収納時に予想される危険について知らせる。

●留意点

1. ドームテント、タープの設営と収納については、全員に1回以上体験してもらう。時間がない場合は、初心者優先して、経験者には、担当スタッフの補助にまわってもらう。
2. グループごとに、担当スタッフの指導のもとに実習を行う。
3. 予想される危険への指導
ボールの突き刺し、跳ね。ペグの打ち込み、引き抜き時の打撲等。
張り綱扱い時の摺り・やけど。張り綱・ペグでのつまずき

●準備品

指導者のためのスカウトキャンプ(各自)、ドームテント(班1)、タープ(班1)
荷札、細紐、予備ペグ、予備綱

●セッションの進め方

1. 導入(座講)

- (1) 野営の生活の基本は「食う」「寝る」「排す」「遊ぶ」です。
このうち、最も大切なのが「食う」、次は「寝る」です。
自然の中に出ると、様々な「生きること」の基本に出会います。安らかな家で家族と暮らしていると、そのありがたみを感じることはなくなってしまうが、キャンプにいくとイヤがおうにもダイレクトに感じるのが「夜」の存在です。
- (2) 太陽が隠れて、漆黒の闇が訪れ、辺りが見えなくなり、気温が下がり、昼間なら何でもない物音が、急に存在感を持ち始めます。立った1枚の薄い布の存在がどれほどありがたいものかを実感する瞬間です。
- (3) 視界を奪われる闇夜に備えて、明るい内からテントを建てます。夜を過ごすための「家」は朝までしっかり機能を果たさなければなりませんから、そのために
「どう建てれば、安全に安心に過ごせるか」
を考える必要が生まれます。
 - ・雨や風の対策をしないで夜中にやり込められたら
 - ・蚊や虫が寝ているときに侵入してきたら
 - ・寝床が傾いていたり、凸凹していたらと思うだけで、その気持ちは真面目なものになります。
- (4) 風雨などの天気把握や予測、フィールドの特徴による設営場所・方向の選択や工夫。班の仲間達と一緒に考える内にそれがイコール「ヒトが生き残るための知恵」であることをスカウトたちは実感するはず。
- (5) 夕闇が迫る前にそれらの作業を完了させるためには、作業の役割分担が必要になります。当然テント設営だけでなく、水汲みや薪拾い、夕食の準備など、キャンプにはやらなければならないことが山ほどあります。
- (6) しかし、これらの作業は、親が与えるお手伝いとは、遙かに違う意味を持つのです。キャンプという生活の中では、自分達の労働が、なぜそうし

◆装備の準備(業務)

- ・ドームテント(一式)
- ・タープ(一式)

これらをグループ単位にしておいてください。

◆標準を守ること

- ・テントやタープの建て方、しまい方は、参加者ノートに詳しく掲載してあります。
- ・それを茨城の研修におけるスタンダード(標準)としますので、買ってに行わずにその手順通りに行ってください。

なければならないのが、はっきりいできるので、スカウト達は自主的に行動することに責任と喜びを感じ取るのです。

・・・ということで、これからキャンプでの最も大きな作業、「家づくり」＝テント建てと、「居間と食堂づくり」＝タープ建てを実際に行ってみましょう。

2. 展開

(1) 各グループに装備を渡す

- ① 予め、グループごとに装備を分けておいておく。
- ② 各グループに、それらを取りにきてもらう。
戻ったら、炊具と同様に員数チェックをさせる。この必要性を改めて伝える。
- ③ 確認が終わったら、資料を各グループ（全員）に配る。

(2) 資料を読みながら、ポイントを伝える

- ① 担当講師により行う。
- ② 次に、実習の場所、安全の確認（ポールの突き刺しや跳ね。ペグの打ち込み、引き抜き時の打撲等。張り綱扱う時の摺り・やけど。張り綱・ペグでのつまずき、ハンマーやペグの置きっぱなし等について説明）を行う。

(3) 実習

- ① グループ担当の指示で、テントを建てる。（雨天の場合は室内で）
 - ・ 収納状態の確認
 - ・ 各部品の確認
 - ・ テント各部の説明（名称、機能）
 - ・ 設営手順の説明
- ② 同じくタープを建てる（雨天の場合は室内で。ペグの代わりになるものを探して代用する。体育館であれば、例えばバレーのネットのポールとか、平均台やマットなど）
- ③ 前のセッションで習った、ロープ結びをココで実際に使ってみる。
 - ・ トートラインヒッチ ・ もやい結び ・ 二重8の字結び
- ④ グループ担当の指示で、テントを収納する。
 - ・ 収納の手順と、乾燥の説明
 - ・ 各部の点検（破損当のチャックと対処方法）
 - ・ ペグの泥落としとさび止めの処置
 - ・ 幕体の折り目をずらす処置
 - ・ 収納してあったとおりに、収納する。
- ⑤ 安全について、機会を捉えて説明する。

3. まとめ

(1) みなさん、テントとタープ、きちんと建てられたでしょうか？

大自然の中のキャンプで、安全で安心できる場所、それはテントの中でしょう。たった1枚の薄っぺらな「布切れ」が、暗闇の恐怖から私たちを救い、疲れをいやし、また、張りつめた心を落ち着かせてくれます。

- ① キャンプで最大の「安心」できる場所は何かを知らせる。
 - ② 安全を確保することは、楽しいキャンプの基本となる。それには細心の注意をすることが必要。
 - ③ 備品管理の重要性を知らせる。
 - ④ 雨天時の取り扱いについても感嘆に知らせておく。
 - ・ 天候が回復しない時は、大きなビニール袋に入れて持ち帰る。
 - ・ 持ち帰って、天気が回復したら、十分に乾燥するまで干す。
特に張り綱はなかなか乾かないので、十分に乾燥させる。
 - ・ 乾燥してから、収納する。
- 撤収は、次のキャンプの準備である。

§7 まとめ

担当 主任講師 (20 分) 16:00--16:20 場所

●目標

1. これまでの研修で解らなかったことについて、補講する。
2. 質疑応答。
3. より高度の技能を身につけるには、ステップアップが必要であることを知る。

●指導上のねらい

1. 補講については、参加者の理解不足部分を予め把握した上で、それに対処する形で行う。
2. 野営技能を向上させることは、スカウトにより魅力あるプログラムを提供することに直結している。
3. そのために、自隊での活動でいろいろと体験し、次のステップとして「野営法研究会 Step1」に進んで、更に研修を続けることを伝える。

●留意点

1. ここでは、この野営法についてのみ対応する。ボーイスカウト日本連盟の方針に抵触する内容、個人のプライバシーに関する内容については、回答できないこと。
2. 指導者の研修は、実践の場である。茨城県では、多くの研修の機会を用意していることも伝える。

●講師スタッフの持参品

- | | | | | |
|----------|--------|-----------|------------|-----|
| ・指導者手帳 | ・マイカップ | ・作業手袋(軍手) | ・作業帽 | ・雨具 |
| ・箸 | ・筆記用具 | ・個人用救急セット | ・折りたたみ椅子 | |
| ・水筒 | ・米(1合) | ・ナイフ | ・虫除け、虫さされ薬 | |
| ・スカウトロープ | ・食器 | ・その他 | | |

【書籍類】

- ・指導者のためのスカウトキャンプ
- ・ロープ結び
- ・その他、講義に必要な書籍

式次第

○開会式 (司会:)

1. 開会のことば
2. 国旗儀礼
3. 主催者挨拶、及び主任講師紹介
4. 主任講師挨拶
5. 講師の紹介、および業務スタッフの紹介(自己紹介)
6. 閉会のことば

7. 写真撮影
8. オリエンテーション(業務より)
 - ・会場の利用について
 - ・トイレの位置
 - ・飲食の場所と制限事項等

○開会式 (司会:)

1. 開会のことば
2. 修了証授与
3. 主任講師講評
4. 主催者あいさつ
5. 国旗儀礼
6. 閉会のことば

※この研修は、加盟員だけでなく、一般の方にも解放しています。

そのため、連盟歌や光の路といったボーイスカウ独自の歌については、式次第に含まないこととしました。

